

ソーシャルガイドシステム Nayuta の開発

— ネットの利用におけるコスト／リスクへ立ち向かう為に —

1. 背景

今日インターネット上のサービス・情報は爆発的な増加の一途を辿っています。それ故にインターネットの利用者は知らず知らずのうちに大きなコストを払っていると言えます。

例えば、ユーザーがあるサイト上で操作の仕方が分からなかったとします。そのページは既に自分以外に何千人以上ものユーザーが利用していてその答えを知っている人がいるのにも関わらず、沢山の人が同じ事で悩まなければいけません。現在のウェブの仕組みでは、同じサイトで次々にフィッシング詐欺にあったりウィルス被害を受けたりすることを止めることさえ難しいのです。

結局のところ、ユーザーの集合知をシステムとして実現し、それぞれの知識を常にフィードバックしていく以外に広がり続けるネットに対応する為の有効な手段はないように思えます。しかし、ウェブは未だ旧来技術の延長上にあるため、集合知を実現するシステムの開発には技術的な障害がありました。具体的には、①制限されたユーザーインターフェース と②サイトをまたいで横断的にサービスを提供できない という問題です。

2. 目的

本プロジェクトでは COM ブラウザ拡張技術を高度に活用することで

- 自分の意見・質問をストレスなく直感的な操作で入力できる UI
- どんなウェブページ／サービスへも適用できるオーバーレイ技術

の2点を実装し、ユーザーがウェブ上で効率よく意見を交換し、管理し、知識化するための技術的土台を作成します。

それにより、インターネット全体をより使いやすく安全なものにすることが本プロジェクトの目的です。

3. 開発の内容

- ・ ウェブサイト レイヤー化技術 Nayuta の開発

Nayuta は、Microsoft Windows 上での Internet Explorer (ウェブブラウザ) の動作を拡張させる COM アーキテクチャを用いて実装されたものです。ユーザーの見ているデスクトップスクリーンとウェブブラウザ上に表示されているページの間には仮想的なレイヤーを作り出し、現在表示しているウェブページ上にテキストや画像・リンク別のウェブページなどのオブジェクトを配置することができる技術です。さらに、作成した仮想レイヤーを別ユーザーとオンラインで共有することが可能です。

この技術によってユーザーは現在表示しているウェブページからテキストや画像・リンクを自由に切り出したり、逆にメモ書きや図形データをウェブ上に貼り付けたりし、それを別ユーザーと共有することが出来るようになります。

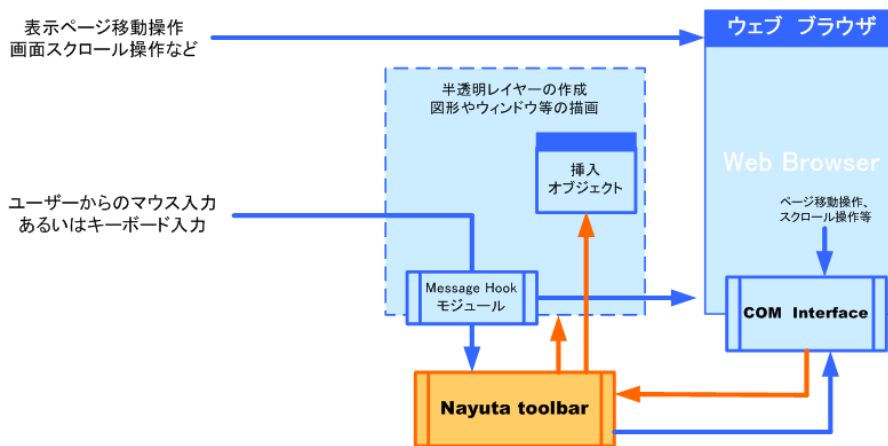


Fig 1 中間レイヤー作成時の Nayuta 動作フロー

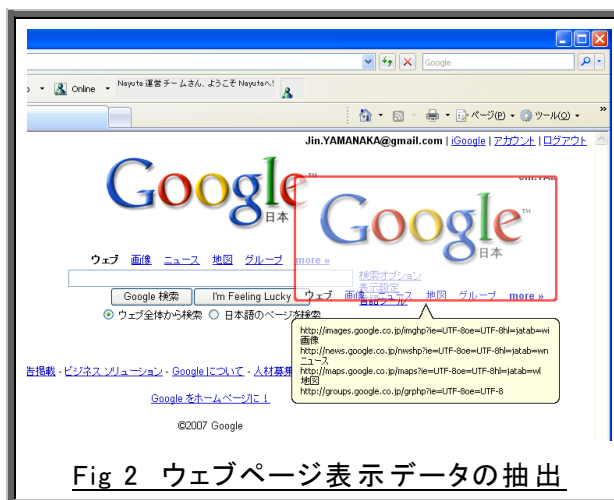


Fig 2 ウェブページ表示データの抽出

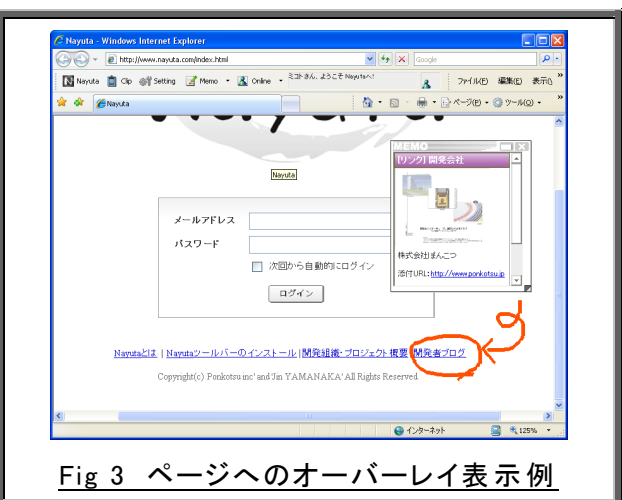


Fig 3 ページへのオーバーレイ表示例

・ ソーシャルブックマークサービス(Nayuta.Clip)の開発

驚異的な勢いで増え続けるウェブサイトについて、それらをレーティングし整理するためのシステムとしてソーシャルブックマークサービスがあります。しかし、タグ情報やページのタイトル情報だけではそのページの内容を十分に把握することには難がありました。

本プロジェクトでは、Nayuta を用いてページに表示されたものを何でも抽出し、ブックマーク化できるサービスを開発しました。ユーザーはページ内の任意の部分を切り取って代表画像を持つクリップとし、それに含まれるリンクやテキストを自動抽出することで内容が分かりやすく検索性に富んだブックマーク情報を作成できます。



・ メモ情報共有サービス(Nayuta.Memo)の開発

ユーザーが閲覧しているウェブページへ付加情報の入力や他ユーザーへの質問をリクエストできるシステムです。ユーザーは表示しているウェブページ上へ直接メモ情報を作成できます。作成されたメモは異なる PC 上で操作する別ユーザーが同じページを開いた場合でもそのままオーバーレイ表示させることができるという画期的な操作性を実現しています。このサービスを用いることで、ウェブサービスや HTML 文書へのナレッジデータベースを簡便に作成することができます。

Nayuta.Memo では、ユーザーがあるサイト上で[教えて!]メモ や[募集!]メモ を作成した場合、そのサイト(ドメイン)を訪れたことのあるユーザーへリクエストをポストする機能があります。これによって、そのサイトを利用したことのある全てのユーザーへメッセージを送ることなども可能となり、サイトやコミュニティの枠を超えたインタラクションを実現できます。

4. 従来の技術(または機能)との相違

ウェブページ上の UI 技術としては Ajax と呼称される JavaScript をベースとした類似サービスがあります。しかし、Ajax ではユーザーはそのサービス提供サイト上でしかそのサービスを利用することが出来ません。例えば、ある SNS 上で提供されるガジェットのような特定サイト上でのみ動作できるアプリに対して、本技術はブラウザ上であればどのサイト上でも動作させることが出来ます。

また、ページ上の画像やリンクを簡便な操作で抽出できる機能など今まで他のソフトが実現できなかった機能がより直感的に利用できるようになっており、使いやすさという点でも大きなアドバンテージがあります。

5. 期待される効果

新たなコミュニケーション方法の実現により、ウェブ産業分野においてユーザー間インタラクションの増加とサイトナレッジの蓄積が見込まれます。このデータ・技術を API の実装によりオープン化して提供することなどによって業界全体を活性化させられると考えています。

また、サイトオーナーもこのシステムを用いることでサイト上のユーザーの意見・行動を簡易に取得することができ、より良いサイト作りに役立てることが可能になることも特筆すべき点の一つです。

6. 普及(または活用)の見通し

2007 年度 10 月に Nayuta.Clip 及び Nayuta.Memo の試験サービスを開始し、来年度中には 30 万人以上の利用者の獲得を目指します。

また、本レイヤー化エンジンを別サイトへ提供します。例えば既存の SNS コミュニティサイトやグループウェア・文書管理サービスへの OEM 提供を行い本技術の普及を目指します。

7. 開発者名(所属)

山中 仁 (株式会社ぼんこつ 代表取締役)

(参考)開発者 URL

<http://www.nayuta.com/>